

平成 26 年度 後期公開授業週間(11/4～11/21)のまとめ

1 各評価について：12の観察項目中、すぐれている点と改善するとよい点で顕著な項目

(1) すぐれている点

- ・指導内容：教材が適切に使用され、十分な教材研究がなされている。(後期 43% 前期 50%)
- ・指導形態：生徒個々が、授業への参加意識を持てる場が設定されている。(後期 53% 前期 53%)
- ・学習態度：生徒は、授業に集中している。(後期 48% 前期 58%)
- ・学習反応：生徒は、発問や学習課題に対して積極的に取り組んでいる。(後期 48% 前期 44%)

(2) 改善するとよい点

- ・授業展開：本時の目標達成に向けて、授業展開は適切である。(後期 14% 前期 32%)
- ・授業展開：生徒の理解度・到達度の把握が随時行われている。(後期 19% 前期 16%)
- ・指導形態：生徒の理解を促すように、発問や板書が工夫されている。(後期 19% 前期 20%)
- ・学習態度：生徒は、学力の定着のための努力をしている。(後期 19% 前期 20%)
- ・思考過程：生徒に論理的思考力を身に付けさせる授業展開になっている。(後期 24% 前期 11%)
- ・学習反応：生徒は、分からない点を積極的に質問している。(後期 19% 前期 53%)

【まとめ】

「すぐれている点」において、前期と比べて顕著な差異はないものの、わずかではあるが**生徒の学習反応に高まりがみられる。**

「改善するとよい点」においては、前期と比べて授業展開に改善がみられる。とくに**学習反応については生徒が分からない点を積極的に質問するなど、授業改善の成果が出ているが、論理的思考力を身に付けさせる授業展開に課題がみられる。**

今後は、上記の成果をさらに伸ばしつつ、**生徒が主体性を持って授業に取り組める授業、課題解決型授業の**実践を追究していきたい

2 S G Hに関する授業改善

(1) 「コミュニケーション能力の育成」の実践例

- ①**ペア学習やグループ学習**を多く取り入れる。
- ②発表に対して**生徒同士が議論したり、生徒の発言を引き出したりする工夫**がされている。

(2) 「語活用能力の育成」の実践例

- ①**生徒間で意見交換をできる時間帯**があり、その態勢に移行できる習慣が身に付いている。

(3) 「課題解決能力の育成」の実践例

- ①できない生徒へアドバイスしている生徒の姿があり、**生徒同士が高めあう姿**があった。
- ②**グループで課題を解決する機会**があり、話し合うための教材や道具も適切であった。